第 13 回水環境学会シンポジウム
本部・湿地・沿岸域共同企画　講演会・見学会
「琵琶湖・淀川流域再生の最前線」「見て聞いて学ぶ琵琶湖の保全・再生の今」

日時：2010 年 9 月 9 日 9：00-12：20（講演会）　12：30-17：00（見学会）

講演会・見学会の主旨：

今日、人類の発展における「持続可能性」を考える上で、地球上の各地域で多様な生物とその背景に存在する「生態系」が構成されていること、そして人類は生態系から提供される多種多様な公益的機能および資源を利用していること等が再評価されています。日本最大の湖である琵琶湖は、現在の湖が成立してから 40 数万年、古琵琶湖を含めると約 400 万年の歴史を有する古代湖であり、多様な生態系を育んできました。琵琶湖では、富栄養化の指標とされる透明度やクロロフィル量は北湖･南湖とも長期的に減少しており、湖の富栄養化はほぼストップしたと考えられています。これは、流域下水道の整備など、水質浄化への不断の努力が功を奏したといえます。一方で、2006 年に発行された滋賀県版レッドデータブックでは、琵琶湖固有種の 62%、固有魚類では 73%もの種が絶滅危惧種、絶滅危機増大種、希少種に指定される等、水質が改善されたにも関わらず、琵琶湖の生物多様性は危機的状況にあるといえます。本講演会では、下流域 1,400 万人の命を育む琵琶湖における生物多様性保全の現状をより深く学ぶとともに、管理者側における最先端の事業内容を紹介していただきます。また、滋賀県は 2003 年に「環境こだわり農業推進条例」を立ち上げ、国も「環境保全型農業」確立のための対策の一つとして、2007 年から「農地・水・環境保全向上対策」事業を開始しています。生物多様性を育む場に対する人のかかわりを、環境こだわり農業と農薬の関係から、最新の研究事例を紹介していただきます。そして、水と人とが共生した里山での暮らしを、琵琶湖北湖の住民の代表の方にご講演いただくことで、水環境分野における生物多様性研究や自然再生事業の重要性を再確認できればと思います。

午後には、バス、船を利用して現場である琵琶湖に訪れ、自然再生現場を湖上から見学し、また、湧水を利用した里山の暮らしを、地域住民の皆様に紹介していただく見学会を予定しております。多数の皆様の積極的なご参加をこころよりお待ち申し上げます。

講演会の概要：

9：00－ 9：05	テーマ説明
9：05－10：05	生物多様性からみた琵琶湖・淀川水系 滋賀県・琵琶湖環境科学研究センター　西野麻知子 琵琶湖環境研究部門長
10：05－10：40	琵琶湖とたんぼを結ぶ取り組みについて～針江浜うおじまプロジェクト～ 国土交通省 琵琶湖河川事務所　守安邦弘 所長
10：50－11：25	琵琶湖と農業と農薬～環境こだわり農業は琵琶湖への農薬流出を減らせるか～ 滋賀県立大学環境科学部　須戸幹 教授
11：25－12：00	水のつながりは人のつながり～針江生水の郷委員会の取り組み～ 針江生水の郷委員会　山川悟 会長

見学会の概要：

12：30　京都大学発　→（バス）→　13：15　大津港着

13：25　大津港発　→（船）→　13：50　ヨシ群落再生現場

→（船）→　15：15　今津港着

シップ・オブ・ザ・イヤー2008 に選ばれた環境船 megumi によるクルーズです。約 80km の湖上の旅をお楽しみ下さい。

15：15　今津港発→（バス）→15：30 針江

15：30　水辺里山ツアー（現地の住民の皆様によるガイド）

新旭町は「自然と人がともに息づく町」として、きれいな水を中心に、人々が自然と共存しながら暮らすようすが見られます。とくに針江地区では、地下水が豊富に湧き出し、古くからある家には、川端（かばた）と呼ばれる水仕事専用の施設がのこされ、それを今も生活のために利用している家庭が数多くあります。

人々はこの自噴する清らかな水を飲料や炊事といった日常生活に利用しています。このシステムをこちらでは川端（かばた）と呼んでいます。魚たちとうまくつきあいながら、水を大切につかう工夫が昔から受け継がれてきました。川端の水は、各家庭で生活水として利用され、水路に入り、琵琶湖へと流れます。今回のツアーでは、実際にここに暮らす方のお話を伺いながら、散策する予定です。

17：00　JR 新旭駅　解散（17：12 発の新快速電車で、JR 京都駅に 17：57 着（実費））

見学会　参加費 2000 円（予約）、2500 円（当日）

連絡先：京都大学地球環境学堂　田中周平　E-mail：t-shuhei@eden.env.kyoto-u.ac.jp、TEL・FAX：075-753-5171